

コロナ禍における市立旭川病院全職員に対する意識調査研究－平時との比較検討を含めて

旭川市医師会／市立旭川病院
山内 善裕、柿木 康孝、斉藤 裕輔

I 背景および目的・意義

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は2019年12月に中国湖北省武漢市に端を発し、その後世界的な感染拡大へと連鎖した。日本においては2020年1月15日に第1例目を確認され、北海道では同年1月28日、上川管内では同年2月21日、旭川市では翌2月22日に確認されている。まもなく、世界保健機関（WHO, World Health Organization）は2020年3月11日に「パンデミック」を宣言したが、その後これまでに全世界で猛威を振るい、席卷しているのは周知のとおりである。上川中部二次医療圏において唯一の第二種感染症指定医療機関である市立旭川病院では管内第1例目発生と同時に患者受け入れ体制を速やかに構築し、これまでに市内基幹病院と協力しながら多くのCOVID-19感染患者の診療にあたってきた。帰国者・接触者外来を前身とする「発熱外来」診療においては、一般患者と交差しないための発熱患者隔離誘導等の必要性から医療スタッフのみならず事務系スタッフの協力も得ながら、病院全職員体制で臨む必要に迫られた。COVID-19確定入院患者に至っては隔離病棟において看護師・医師をはじめとした医療スタッフが个人防护具を装備しながら患者のケアを行う必要があり、一般患者の診療とは比較にならないほどの身体的労力および精神的緊張が必要とされた。このようなコロナ禍における診療状態が約1年程度経過したところで、全職員の心身状態を把握することは病院の健全な運営・経営を遂行するにあたってはきわめて重要な課題であり、今後の病院体制構築にあたって、重要な基礎情報を与えてくれると考えられる。

本研究では臨時・正職員を問わず、当病院で働く全職員を対象に勤務意欲、職場満足度、職場コミュニケーション等に関する意識調査を行い、コロナ禍での職員の「思い」「心身の状態」を把握することが可能と考えた。本意識調査の解析検討は、当院職場環境の整備および改善に向けた取り組みの駆動力となるものであり、さらには当院が良質な医療を地域に提供できる体制構築のための礎ともなり得ると考えている。さらに、本調査では全職員が「コロナ禍での当院での働き方」を熟慮する良い機会にもなり得ると考えた。

II 調査対象および方法・内容・期間

1. 調査対象および方法

調査対象：全職員（正・臨時を問わず）835人

調査方法：場所や時間を問わず回答できるよう、電子媒体を用いて調査を行った。インターネット上（Googleフォーム）に調査票を作成、リンク先（二次元バーコード）を院内の電子掲示板で周知し、個人のスマートフォンやタブレット端末から入力して回答を得た。

2. 調査内容

8問からなる選択設問と3問からなる自由記載設問を設けた。8問の設問は以下の通りで各設問には付帯事項として自由記載欄を設けた。また、各選択設問については5段階回答（とてもそう思う、ややそう思う、どちらとも言えない、あまりそう思わない、まったくそう思わない）とした。

選択設問：

| | |
|-----|-----------------------------------|
| 設問1 | 今の仕事にやりがいを感じていますか |
| 設問2 | これからもこの職場で働き続けたいと思いますか |
| 設問3 | 職場の雰囲気（自由に提案でき、協力し合えるなど）は良いと思いますか |
| 設問4 | あなたは患者として自分の病院を利用したいと思いますか |
| 設問5 | 病院は職員の安全に配慮していると思いますか |
| 設問6 | 現在の処遇（カット前の報酬、福利厚生など）に満足していますか |
| 設問7 | 市立旭川病院を職場として知人に勧めようと思いますか |
| 設問8 | あなたの能力、仕事の成果は正当に評価されていると思いますか |

評価視点としては①総合満足度が設問2、7、②医療の質が設問4、③勤務意欲が設問1、8、④職場コミュニケーションが設問3、⑤職場環境が設問5、⑥処遇が設問6、と考えた。

また、自由記載設問の3問は以下のとおりである。

| | |
|------|--|
| 設問9 | あなたが考える経営改善のための一手を教えてください |
| 設問10 | あなたが考える「だからうちの病院はダメなんだ！」と考えることを一つ教えてください |
| 設問11 | あなたが考える「ここがうちの病院のいいところ」と考えることを一つ教えてください |

評価視点としては⑦経営改善へのヒントが設問9、⑧反省すべき点が設問10、⑨伸ばしていきたい点が設問11と考えた。

3. 調査期間

令和3年3月29日～同年4月30日

III 分析方法

MS・Excelによる単純集計および統計ソフト（EZR）による多変量解析により分析した。

IV 結果

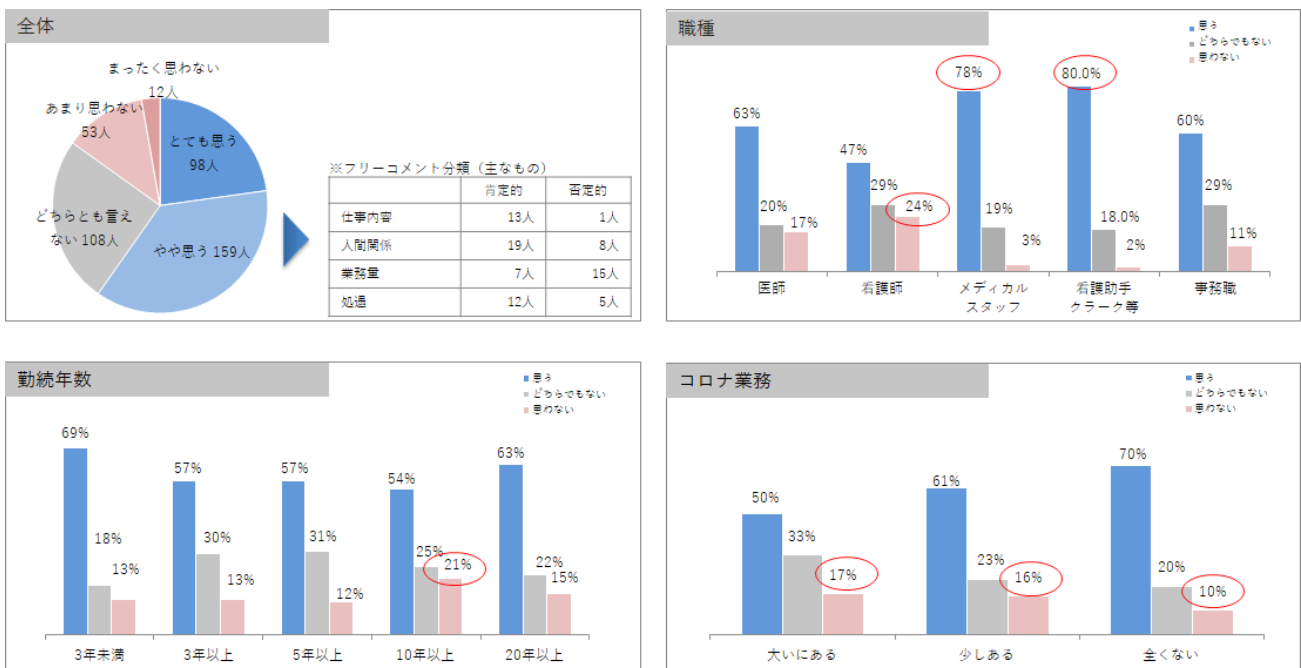
1. 回答者属性

430人から回答を得た（回答率51.5%）。職種別では医師41人（全医師数の47%）、看護師198人（全看護師数の50%）、メディカルスタッフ78人（全メディカルスタッフ数の74%）、看護助手・クラーク40人（全看護助手・クラーク数の28%）、事務職73人（全事務職数の72%）であった。年齢別では20代49人（11.4%）、30代109人（25.3%）、40代129人（30%）、50代96人（22.3%）、60代以上47人（11%）となっていた。COVID-19感染患者業務への関わりでは、「大いにある」が117人（27.2%）、「少しある」が226人（52.6%）、「全くない」が87人（20.2%）を占めていた。

2. 単純集計による分析結果（本稿では設問2および4の結果を中心に報告する）

設問2「これからもこの職場で働き続けたいと思いますか」において、“思う”と回答した職員が257人（全回答者数の60%），“どちらとも言えない”が108人（25%），“思わない”が65人（15%）であったが、職種別集計における看護師の割合では、“思う”が看護師の47%、“思わない”が24%と、全職種の平均に比べネガティブな回答割合が多かった。また、勤続年数別では10年以上20年未満の“思わない”の割合が21%と、平均よりもネガティブな回答割合が多かった。さらにコロナ業務有無別で見ると、コロナ業務が多いほどネガティブな回答が多くなる傾向が見取れた。（図1）

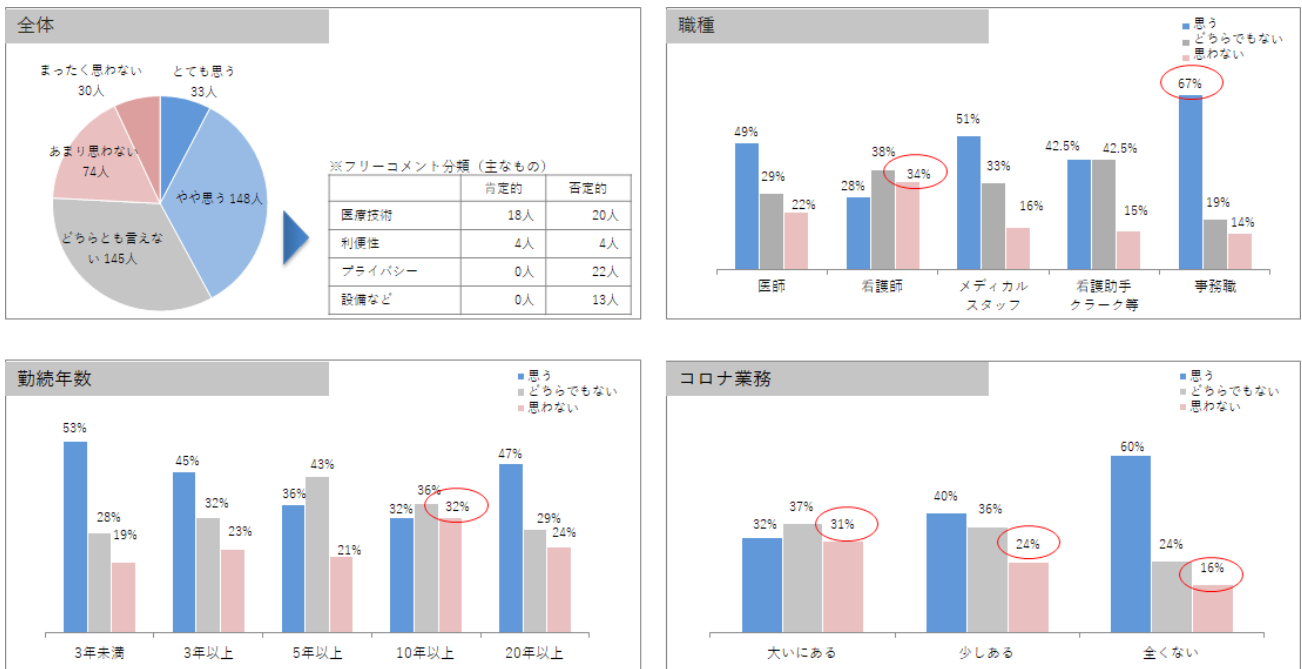
図1



設問4「あなたは患者として自分の病院を利用したいと思いますか」において、“思う”と回答した職員が181人（全回答者数の42%），“どちらとも言えない”が145人（34%），“思わない”が104人（24%）であったが、職種別集計における看護師の割合では、“思う”が看護師の28%、“思わない”が34%と、やはり全職種の平均に比べネガティブな回答割合が多かった。また、勤続年数別では10年以上20年未満の“思わない”の割合が32%と、平均よりもネガティブな回答割合が多かった。さらにコロナ業務有無別ではこ

の設問においても、コロナ業務が多いほどネガティブな回答が多くなる傾向が見て取れた。(図2)

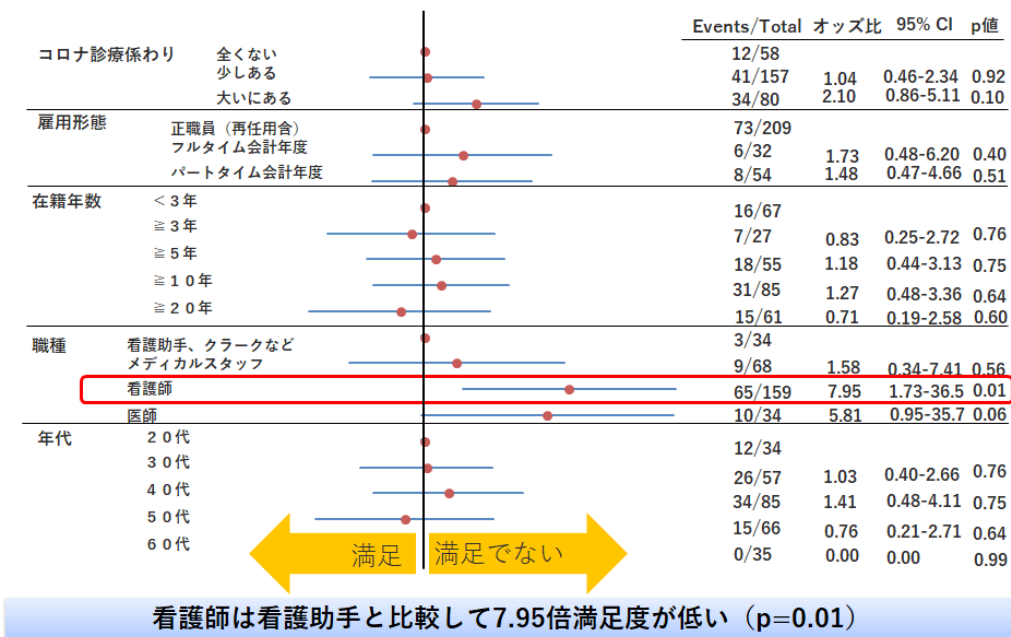
図2



3. 多変量解析による解析結果

単純集計により大まかな傾向を把握した上で、「コロナ診療有無」「雇用形態」「在籍年数」「職種」「年代」の5つの説明変数について多変量解析を行った結果、看護師の“満足でない”と回答した件数が看護助手、クラークと比べオッズ比7.95倍、95%信頼区間1.73-36.5、p値も0.01と、単純集計で見た傾向である「看護師」の職種が、満足度が低いことに関する独立した因子であることが示された。(図3)

図3



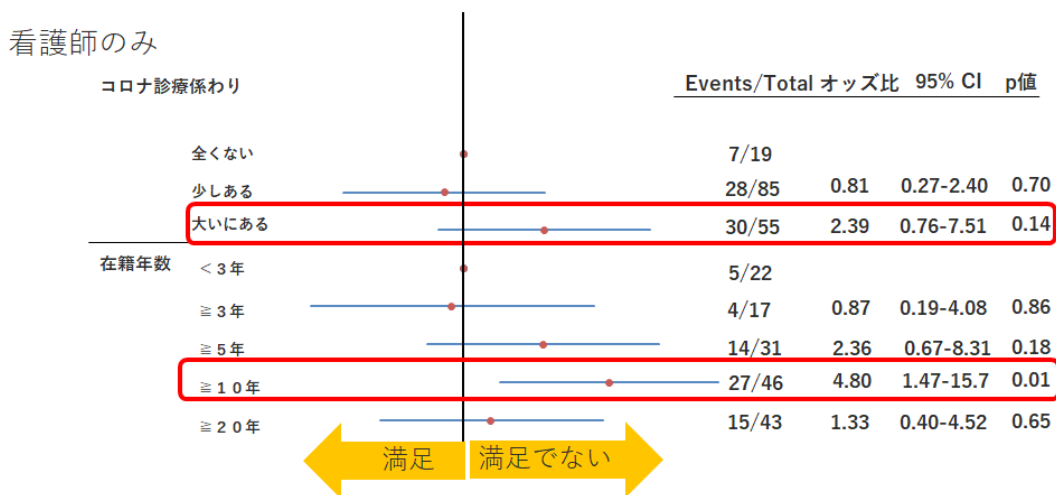
さらに、この看護師の満足度が有意に低い原因がコロナ患者の看護が原因かどうかを探るため、看護師のみについてサブ解析を行ったところ、p値は0.14であることから、コロナ看護の関わりの大小は満足度を低下させる有意な要因ではないという結果となった。(図4)

また勤続年数10年以上の看護師の満足度は有意に低い結果となった。(図4)

以上の結果から、1. 看護師の満足度が低い、2. 特に在籍年数10年以上20年未満の看護師の満足度が

低い、3. コロナ診療有無と満足度の相関は限定的である、ということが判明した。

図4



「コロナ業務大いにある」では「コロナ業務なし」と比較し、2.39倍満足度が低いが、統計学的に有意ではない (P=0.14)

在籍年数「10年以上20年未満の年齢層」では「3年未満」と比較し、4.8倍満足度が低い (P=0.01)

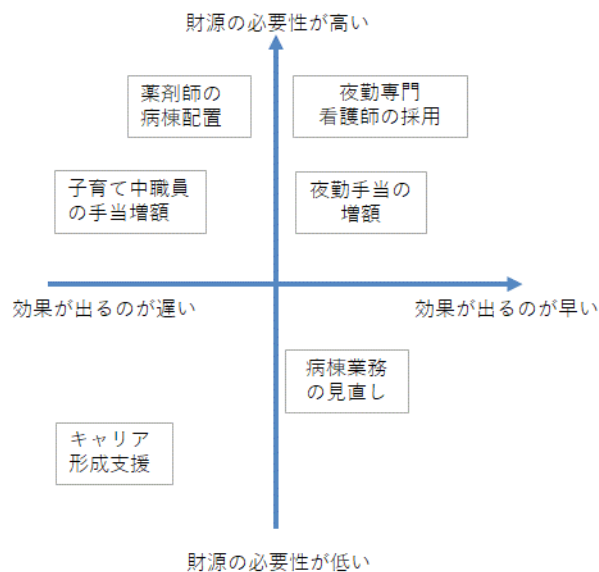
V 考察

看護師の満足度がほかの職種と比べて低い原因を探るため、回答欄に記載されたフリーコメントを解析した結果、夜勤と子育ての両立の困難さ、業務量の増に伴う体力的な問題といったキーワードが見えてきた。

解決に向けた具体的な方策としては、看護師の増員、特に夜勤専門の看護師の採用や夜勤に対するインセンティブの付与（手当の増）等があげられる。また病棟薬剤師の配置による病棟業務のタスクシェアリングも有効であろう。(図5)

図5

解決に向けた具体的な方策



VI 結論

コロナ禍における職員の心身状態の把握を目的に、2021年3月29日～4月30日の間に全職員を対象とした『職員満足度調査』についてdigital媒体を用いて実施し、以下の結論を得た。

1. 他職種に比較して看護師の満足度が低かった
2. 勤続年数10年以上20年未満の看護師の満足度が特に低かった
3. 多変量解析の結果、コロナ診療有無と満足度の間の相関は認めなかった
4. フリーコメントの解析から、看護師の満足度が低かった要因として、夜勤、子育て体力の低下、業務量の増が考えられ、今後、改善策の検討が必要である